

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	羽曳野市 (272221)
地域名 (地域内農業集落名)	駒ヶ谷地区 (北町・東町・西町・中町・山田町)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	63.3 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	43.8 ha
② 田の面積	17.4 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	45.9 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	10.5 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	2.2 ha
(参考) 区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	24.0 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	13.5 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

駒ヶ谷地域は羽曳野市東部に位置し本市最大の農業振興地域であり、その内の一部は農用地区域にも指定されている。本市の特産品である「ぶどう」の最大の産地であり、その生産量は大阪府下最大である。当該地域は山林やぶどう畑の農地が広がっており、みどり豊かな本市の原風景を形成している。デラウェアの早出しの産地として有名であるが、近年若手農家の就農によりシャインマスカットをはじめとする大粒系ぶどうを栽培する農家も増えてきており、生産量も増加してきている。

しかし、一部の農地については原野化(山林化)が進んでおり、ぶどう栽培面積が減少してきている。さらに耕作放棄地は現在ぶどうを栽培している農地に隣接することもあり、生産者の営農を阻害する事態も発生している。加えて当該地域は山林で形成されている部分もあるため鳥獣被害も多く、耕作放棄地の増加に拍車をかけている。後継者問題についてはアンケート調査より回答者167名の内、144名がいない・わからないという結果となったことから担い手不足に直面している。一方で、ぶどう就農の新規参入希望はあるものの、貸借制度が浸透しておらず、農地情報が少ないこと、また、販売・出荷に必要な作業場の確保も困難であることから、新規参入の促進、拡大に課題がある。

当該地域のほとんどの農道は、狭隘でかつ老朽化が進んでいる。また、一部農道がつながっていないため、う回を余儀なくされ、効率が悪い。そのため、営農の効率化や安定化を考えると将来的には基盤整備事業の実施について検討が必要である。

また、ぶどう栽培に不可欠な灌水についても、当該地域には水道等がなく取水が困難である。営農面においても農地周辺にトイレがないなど、営農環境に課題がある。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

今後も大阪府・関西地区で最も有名なぶどうの産地として認知されるよう栽培・生産の取組を強化し、大阪府で唯一無二のぶどうの産地を目指す。そのためには本市内外から当該地域の農地を利用する者(新規参入者)を確保する環境をつくることを目標とする。

参入しやすい環境を作っていくため、以下の内容について取り組んでいく。

- ・地元農家、JA等と協力し、新規参入者の受け入れ体制づくりを進める。
- ・円滑なマッチングのため、農地情報の集約、空き家や作業場とセットでの斡旋を検討する。
- ・基盤整備により、営農環境の改善を図る。
- ・駅近を活用した観光農業の検討。 など

新規参入者確保の取組みのほか、若手農家若しくはベテラン農家の交流の場や情報交換の場を設け、今後も地域農業についての話し合いを継続していき、本市の特産物の「ぶどう」を継承していく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

駒ヶ谷地区の農地利用は認定農業者・認定新規就農者などの中心経営体及びこれらを目指す者、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者に集積・集約を行い、中心経営体(担い手)の受入れを促進する。

営農継続や耕作が難しくなった農地については、遊休農地化しない取組みとして、中心経営体へ貸出しを申出ているように、農業委員とも連携を図る。

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	21	%	将来の目標とする集積率	50	%
--------	----	---	-------------	----	---

(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標

担い手が利用する農地面積の筆数及び面積は295筆で約13.2ha(令和6年度時点)

意向調査にて貸付意向が判明した農地を中心に10年後の令和16年度までに中心経営体及び新規参入者に集積し、農地の集約率向上を図る。

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組

- ・駒ヶ谷地区の農地利用は認定農業者、認定新規就農者及びこれらを目指す者の他、当該地域に新規参入を希望する若手農家や農業法人等に優先的に集積・集約する。
- ・新規参入者の受け入れづくりを進めるため、羽曳野市ぶどう就農促進協議会の機能強化に取り組む。

(2) 農地中間管理機構の活用方法

- ・地域の農地を農地バンク(大阪府みどり公社)に貸し付け、担い手の経営意向を踏まえ、段階的に集積・集約する。
- ・農地バンクの認知度が低い場合、制度内容を本市HPに掲載し周知を行い、得られた農地情報の集約を図る。

また、ぶどうに関しては、経営が困難となると予想される場合には、できるだけ早い段階で事前に情報収集を行い、円滑に新たな担い手に継承できるようにする。(継承においては、一定のバトンタッチ期間を設け、担い手に対して栽培技術の継承を行うことで、地域のぶどう産業を維持する。)

(3) 基盤整備事業への取組

灌水の効率化、農道の拡幅および新設等の基盤整備について、地権者及び担い手に加えて、本市及び大阪府等の行政機関を含めた関係者により検討する。

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組

- ・(2)の情報を本市のHPで情報を発信することで、地域外からの新規参入者確保を図る。

新規就農者にJAや行政等関係機関が必要な支援を行えるサポート体制の確保に取り組む。

加えて行政機関だけではなく、地元の若手農家及びベテラン農家の方から、品質向上や栽培方法等の指導や支援を行い生産の安定を図る。

- ・地域が出来る限り協力して当該地域内の使われていない作業場や納屋を担い手の作業場として再利用できるように所有者に働きかける。
- ・将来の担い手確保のために高校生や大学生等を対象に就農体験ツアーの実施を検討する。
- ・また当該地域において、ぶどうの栽培地としてだけではなく、駅近を活用し、近鉄とタイアップしたぶどう狩りによる観光地としての利用を検討する。

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組

<input checked="" type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑩その他

農家同士の交流の場や情報交換の場を設け、今後も地域農業についての話し合いを継続していく。

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図 上の表示	備考
			ha	ha		ha	ha		
	別紙のとおり		ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	18経営体		13.2 ha	0 ha		15.4 ha	0 ha		

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

[illegible]

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注3: 提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。